

教 員 氏 名	茶 谷 淳 一	職 位	教授
最 終 学 歴	立命館大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学		
学 位	経済学修士		
役 職	学生部長	委員会	運営委員会 学生委員会 大学評価委員会 現教科ゼミ委員会
担 当 科 目	「国際経済入門」(英語コミュニケーション学科「国際経済論」)、「経済学」、 「データサイエンス入門」、「国内研修」、 「教養演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」 「生活と経済」(桜花学園大学)		
教科書・教材・教育方法の実践例	1. 教養演習Ⅱ・卒業研究 これまで学外諸団体（WAFCA、東海北陸車椅子バスケットボール連盟、名古屋市障害者スポーツセンターなど）の協力を得てゼミ活動を展開。社会の中での活動経験のなかでの「気づき」を大切にしたい主体的な学びを実践している。 そのなかでは長野県泰阜村役場やNPO 法人グリーンウッドと協力し、「泰阜ひとねる大学」構想の立ち上げに協力し環境省のモデル事業として取り上げられたほか、新聞各紙で紹介された。 コロナ禍後、2021 年度よりテーマを「SDGs について考える」とし、学内の竹やぶ整備と竹を使ったワークショップ（ふうどトレード、竹あかり作成）を行うほか、2023 年度から海上ごみ調査を行うほか、24 年度からシーグラスの採集のワークショップを行う。学外では引き続き名古屋市障がい者スポーツセンターに協力し、なごや市民スポーツ祭ぽっちゃ大会の運営を担当している。 2. 国内研修 「学外での活動を通じて幅広い人々とのコミュニケーションを通じて授業では得られない知見や経験を身につける。また学生自らが活動を企画・計画、研修先との交渉、実践することを通じて自主性と自信を身につけさせる」ことを目的として科目の創設と運営に従事。この科目を通じて泰阜村役場、NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センターなどと学科との教育的連携が始まった。 3. データサイエンス入門 2023 年度開講した当初より、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度のリテラシーレベルに準拠し、認定制度のモデルカリキュラムに対応した内		

	容、構成で授業を展開している。また、1 時限の内容を AI・IT に関する講義 30 分と、学生が自分の PC で Excel を操作しながら、実際に統計データを処理する課題に取り組む演習 1 時間とすることで授業に変化をもちらせることで、学生が 90 分間集中できる工夫した。また、moodle と 2 台の PC を使いわけすることで、普通教室でも PC 操作の演習ができるよう、工夫している。
教育研究業績	1 . 「デジタル人民元は基軸通貨・国際通貨となりうるか？」『名古屋短期大学研究紀要』第 59 号、2021 年 3 月 2 . 『人の国際移動と現代日本の法 人身取引・外国人労働と日本の入管法制』(共著)、2017 年 2 月 2 . 「現代の国際労働力移動を論じる視角について」『立命館経済学』、第 59 巻第 5 号、2011 年 1 月 10 日 3 . 「日本の対東アジア経済政策とサービス産業の海外進出」『立命館経済学』第 58 巻第 5・6 号、2010 年 3 月 10 日 4 . 『経済走勢分析 - 中国、日本与東盟連合』(共著)、2008 年 1 月 5 . 「雲南省の開発と国際化」『名古屋短期大学研究紀要』第 43 号、2005 年 3 月 31 日 6 . 『東アジア経済と日本』(共著)、2000 年 12 月 20 日
所属学会	1 . 日本国際経済学会 2 . 経済理論学会 3 . 日本地域経済学会 4 . 経済史・政治経済学会